

新宿区次世代育成支援計画 (平成22年度～平成26年度)(素案)に 対するパブリック・コメントの意見及び区の考え方

パブリック・コメントの実施結果

- 1 パブリック・コメントの実施期間
平成21年11月12日(木)～平成21年12月14日(月)まで
- 2 意見の受付件数等

提出意見数	70件
提出者数	25人・1団体
提出方法	
メール	9人・1団体
持参	12人
ファックス	2人
郵送	2人
- 3 意見の計画への反映等

意見を計画に反映	3件
意見の趣旨は計画に取り込み済み	8件
意見の趣旨に沿って取組む	14件
今後の取組みの参考とする	28件
意見として伺う	17件

平成22年3月

新宿区

パブリック・コメント意見一欄

1 計画全体について

意見等の要旨		区の方考え方
1	計画の内容としてはよくまとまっているが、いかに実現するかが重要なことだと思う。	ご意見の趣旨に沿って取り組めます。 これまでも、現行計画に基づき、各種取り組みを着実に進めてまいりました。今後も、本計画に基づき、基本目標や施策目標の実現に向けて取り組んでいきます。
2	各施策表の見出しで「26年度目標」とあるが、中身の多くは「23年度目標」となっている。章のはじめに「23年度目標がある場合にはそれを掲載」と説明されているが、各表の見出しでも説明した方が良いと思う。	ご意見を計画に反映させます。 ご指摘のとおり、章の始めだけでなく各施策目標の掲載ページにも説明を明記します。
3	次世代育成支援計画を推進していく必要性を非常に感じている。	ご意見の趣旨に沿って取り組めます。 「子育てしやすいまち」を目指して、引き続き、次世代育成支援を着実に進めていきます。
4	「子育てしやすいまちだと思ふ人の割合」が3人に1人という現状は、多少なりとも自分の実感を反映していることも含め、残念である。基本目標として、これを45%に引き上げるとしているが、経過的にこれを突破した実績をもつとはいえず、消極的な目標ではないか。半数以上の人「子育てしやすいまちだと思わない」という目標を掲げること自体、区の姿勢が問われるのではないかと。	ご意見として伺います。 基本目標の「子育てしやすいまち」と思ふ人の割合の目標数値については、区の前向きな姿勢の表明として掲げています。確かに、より多くの方が「子育てしやすいまち」と思えるよう取り組むことは重要ですが、一步一步着実に目標値に向けて努力することにより、次のステップにおいて、さらに高い目標を達成するための土壌が築けるものと考えています。 基本目標の数値は、45%とします。ご意見は計画に反映できませんが、区へのエールとして受け止め、努力していきます。
5	子どもの権利条約(p28)では、個々の権利について細目を述べる前提として、「第3条児童に関するすべての措置をとるに当たっては、公私若しくは私的な社会福祉施設、裁判所、行政当局又は立法機関のいずれによって行われるものであっても、児童の最善の利益が主として考慮されるものとする」と「児童の最善の利益」を掲げている。あえてその言葉を外していること自体、全体として児童の最善の利益を保障する視点での再考を促すものである。 待機児童の問題は「着実な推進」を方向としていては、いままさに困っている子どもや親がまんを強いる選択である。一気に待機児童をゼロにすることが求められているのではないかと。こうした点で、区立の保育園を新設するなど、はっきりとした区の姿勢が政策にあらわれることを期待する。 財政うんぬんの言い訳を考える時点で、「児童の最善の利益」を出発点とした子どもの権利条約を語る資格はないと言わざるを得ない。	ご意見の趣旨は計画に取り込んでいます。 子どもの権利条約(素案p28)における4つの権利は、ご指摘の「児童の最善の利益」を前提として提示しています。 この計画全体を通じ、施策目標を設定するにあたり重視する4つの基本的な視点(素案p26)のひとつとして、「①子どもの権利を大切に、子どもの幸せを第一に考える視点」を掲げています。これは、「児童の最善の利益」にあたるものと考えます。 また区では、待機児童解消を最重要課題のひとつとして、全庁的に取り組んでいます。平成23年度までの第一次実行計画期間中の計画事業についても、私立保育園や子ども園の新設、認証保育所の増設等、着実に推進しています。また、緊急対策として、保育ルームの設置等、機動的な対応を図っています。今後も、待機児童解消に向け、取り組んでいきます。
6	「受益と負担のバランス」論(p55)では、子育て、すなわち子どもが社会に巣立つことで、最終的に国・東京都・区に貢献する一大事業である。子ども自身やその家族が受益者であるから負担は当然だという論調が、たしかに一定程度の世論であることは否定しないが、結果としてその負担を是認できないとする人がいれば、それだけ少子化傾向も加速する。 これは、区だけの責任ではないが、高校・大学の学費負担の重さは、世界的に見て異常である。実際、「子どもを育てやすい社会に必要なこと」のトップに経済的支援がきていることを見ても、明白である。 区独自の学費補助・奨学金制度などの思い切った施策、都や国にきっぱりともの言う姿勢が求められている。	ご意見として伺います。 ご指摘のとおり、子育て家庭にとって、子育てにかかる経済的負担は切実な問題であり、新宿区の調査結果だけではなく、他調査においても同様の傾向があります。その負担を軽減するため、素案の本文中にもありますように、区では、国手当を上回る中学生までの児童手当の支給、子ども医療費助成等、保育サービスの負担軽減などを実施してきました。子どもを安心して生み育てることができる社会づくりのためには、社会全体で支えるしくみが大切です。国・都・区が税金を財源とした適切な費用負担を行いながら、子育て支援サービスを利用する方々にも、費用負担能力に応じ、その一端を担っていただくことが必要と考えています。

	意見等の要旨	区の方考え方
7	<p>新宿区全体として、本気で子育てを支援する姿勢がみえてこそ、各論での地域ボランティアの協力で説得力をもって臨むことができるのではないかと。</p>	<p>ご意見として伺います。 区では、本気で子育て支援に取り組む姿勢をお示しするため、本計画の策定を行っています。地域の方々との協働は欠かせませんが、まず、区自らの実践があり、初めて、区民の皆さんのご理解・ご協力がいただけるものと考えています。</p>
8	<p>子どもたちが区立幼稚園・小学校でお世話になっている。四谷地域は、施設等も充実しており、子育てしやすい環境にあり、これといって不便に感じたことはない。 支援計画を読むと、これからますます充実していくようで、嬉しい限りである。ただ、私たち支援される側もその状況にあぐらをかくことなく、積極的に関わっていききたい。</p>	<p>ご意見の趣旨に沿って取り組みます。 本計画を通じて、多くの方々や次世代育成支援の課題を共有し、皆さんと共に取り組んでいきます。どうぞご協力をお願いいたします。</p>
9	<p>確かに私が気がつく所では、子ども家庭支援センター、学童保育などが目につくようになってきた。働きながら安心して子育てができるようになってきているが、専業主婦の私から見ると、子どもを遊ばせる（幼稚園児）施設などは少なく、有料公園、一般公園では遊具が少ないなど考えることはばかりである。 子ども家庭支援センター、児童館では、赤ちゃん、小学生などはスペースがあるが、幼稚園児は使いにくく困っている。現在子育てをしている人達に、より良い生活が送れるよう考えていただければと思う。</p>	<p>ご意見は、今後の取り組みの参考とします。 区立の公園等は185箇所（平成22年1月1日現在）あり、その多くには遊具を置いています。遊具は、利用する方の安全を考慮しながら配置する必要があるため、公園の面積が小さければ設置できる数も少なくなります。 地域の公園を全体的に改修するときには、設置する遊具や施設などについて、公園周辺の方々のご意見を伺いながら計画案を作成しており、遊具を選ぶ際には、その遊具を利用できる年齢層についても考慮しています。 区では、子ども家庭支援センターや児童館、地域の子育て支援施設で乳幼児親子が集える場を提供し、今後も拡充していく予定です。こうした乳幼児スペースは、赤ちゃん、小学生だけではなく、幼稚園児も気持ちよく利用できる場所として充実させていきます。</p>
10	<p>私には、子どもが3人いるが、第1子を出産した10年前に比べて、経済面だけでなく、就学前プログラムや文化体験プログラムなど、様々な支援が充実し、新宿区は確実に子育てしやすい地域になっていると思う。とても感謝している。これからも、今までの取り組みをさらに充実させて継続していただきたい。</p>	<p>ご意見の趣旨に沿って取り組みます。 本計画に基づき、より多くの方が、新宿区を「子育てしやすいまち」と実感できるよう、今後も取り組んでいきます。</p>
11	<p>次世代育成支援には、理想や理念が大切で、子育てには大きな理想「我が国の次世代を担う立派な人間が育成され、次世代の社会を担う人格を育てる」ことが大切である。教育は、子どもにも教育をするが、親や地域の人にも、教育することが大切である。</p>	<p>ご意見の趣旨は計画に取り込んでいます。 ご意見のとおり、次世代育成支援には新宿区のめざす姿（ビジョン）や理念が必要だと考えます。本計画の一章では、ビジョン及び各目標設定の前提となる視点や理念を掲げ、「次代を担う子どもたちが健やかに育つ『子育てしやすいまち』の実現」を目指しています。 目標4「安心できる子育て環境をつくります」では、「家庭・地域・学校が手を携えて子どもを育てる環境づくり」として、家庭の教育力の向上の必要性について提起し、保護者と学校や保育施設職員、民生・児童委員等が互いに信頼関係を築きながら、共に取り組むことを課題として掲げています。本計画に基づき進めていきます。</p>
12	<p>言葉遊びをしているように思う。今回の素案を見て、3編の間に脈絡がないように思え、各編を個別の著者が書いたように思える。 例えば、1編の子どもを取り巻く状況と課題の中の各種データは、何のために記載されたのか説明不足である。出生率の少ないのは、なぜか？新宿区の特殊事情はないのか？実態の把握が充分でないのでは。このように、取り上げられている課題についての実態調査が不十分である。単独世帯数の60%は、正確な数値とは思えない。ワンルームマンションの急増と住民登録の不正確さが問題となっている。これは、子どもの生活環境に、大きな影響がある。 区の総人口の12%に近い外国籍の住民について、これが区民の生活環境、教育環境にとっていかに大きな問題であるかが見えてこない。地区ごとの人数を並べてあるだけである。 これらは一例に過ぎないが、単にデータを並べて考え方を示しても、内容が実態とかけ離れていては議論にならない。より十分な調査を望む。</p>	<p>ご意見として伺います。 「新宿区の子どもと家庭をとりまく状況と課題」に掲載した統計資料は、本計画の策定を目的に平成20年度に実施した「新宿区次世代育成支援に関する調査」や、新宿区住民基本台帳や新宿区の概況、国勢調査、厚生労働省による人口動態統計等に基づいており、掲載しているデータは、Ⅱ章本文の課題や方向性と結び付けて構成しています。 外国人登録の比率については、素案p70の冒頭でご紹介し、「新宿区多文化共生実態調査」の結果も引用しながら、外国人区民への支援に関する課題を示しています。</p>

	意見等の要旨	区の考え方
13	<p>この計画は、区の時限立法とはいえ、今後5年間の法整備の根幹をなすものであり、国の施策を十分に配慮したものであるべきである。民主党政権になり区の施策への大きな影響もあると思うので、これらを考慮した再検討の必要はないか。</p>	<p>ご意見として伺います。</p> <p>この計画は、国の時限立法である「次世代育成支援対策推進法」における「市町村行動計画」にあたるものであり、今後5年間の新宿区の次世代育成支援施策の根幹となるものです。</p> <p>計画に掲げた事業のうち、国の施策の影響を受けるものについては、国の動向を見極めながら、本計画の策定時期までに、検討・調整していきます。</p>
14	<p>「新宿区の主な課題と方向」の中に、外国人区民への対応が、あまりにも希薄であるように思える。言語やコミュニケーションの問題はもとより、義務教育を受けるべき子どもの学習支援にまったく触れていないのはいかなものか。統計データ上に出てこないこととも関連して、区の教育施策に問題ありと思う。</p> <p>クラスに1人の外国籍の子どもがいるだけで、担任の先生がどれほど苦労しているか、素案の関係者にこれらの現実を承知・把握しておられる方がいれば、この内容は変わっていたかと思う。</p>	<p>ご意見は計画に反映させます。</p> <p>素案 p22「新宿区の主な課題と方向」では、課題と方向性を大括りに掲げていますが、ご指摘の学習支援の必要性についても課題として捉えています。このため、素案 p70「特に配慮が必要な子どもと家庭のために」の「③外国人家庭」の主な事業に掲げた区立学校（園）における「日本語サポート指導」では、21年度から、日本語及び学校（園）生活に関する適応指導に加え、日本語学習支援ボランティアを配置し、放課後に学習支援を実施し、教科学習に必要な力を育成しているところです。</p> <p>従って、本計画に学習支援の具体的な取り組みについての記述を追加します。</p>
15	<p>私自身、区の様々な子育て支援施策の恩恵を最大限に享受している区民のひとりである。とても楽しく子育てをさせていただいている。好きな仕事をしながら、わたしたち家族の誰ひとり無理をせずに、子どもとの時間と仕事のバランスをとって生活ができていくからである。</p> <p>どういう働き方を選ぶか、どんな子育て観をもっているか。それは人それぞれどんなライフスタイルであるにせよ、それぞれの人が「楽しく子育てできているか」が全ての指標であると考え。わが家のように、すべての家族が、楽しく子育てできるように、世の中を整えていきたい。</p>	<p>ご意見の趣旨に沿って取り組みます。</p> <p>本計画では、今回新たなビジョンとして、「②ワーク・ライフ・バランスが実現するまち」を掲げ、「ワーク・ライフ・バランスが実現できる環境づくりを推進します」を施策目標5に設定しました。また、「子育てしやすいまち」と思う方の割合を増やすことを基本目標としました。</p> <p>ご意見のとおり、「楽しく子育てできているか」は、大切な指標と考えます。「子育てしやすいまち」は、「楽しく子育てができるまち」でもあるかと思えます。</p> <p>子育て中の人に限らず、すべての人がワーク・ライフ・バランスの実現を可能にし、心と生活に余裕を持つことが、様々なライフステージで自分らしく生き、支えあえる家庭や地域づくりにつながります。</p> <p>区としても、本計画に基づき、ワーク・ライフ・バランスが実現できる環境づくりを、子育て家庭、事業主、労働者、地域住民の皆さんと一緒に、引き続き推進していきます。</p>
16	<p>素案に対して敬意を表する。新宿区は先進区だとつくづく感じる。子育てを応援する人と支えあいの子育てと書いているが、私がお手伝いできるか別として、保護者が嫌がると思う。新宿区内の保護者（子どもを持っている）は、その素案を熟知するのか。</p> <p>子は国の宝と言うが、この素案を見て、一筋の光明を感じる。</p>	<p>ご意見の趣旨に沿って取り組みます。</p> <p>本計画を、保護者を含む多くの方々に広く周知するとともに、社会全体で子育てを支えあえるまちづくりに向けて、働きかけを行っていききたいと思えます。</p>
17	<p>計画を拝見した。立派な計画であると思う。</p> <p>しかし、あまりにも区の色々な施策に頼りきってしまう他人任せの人が増えてしまうのを心配する。</p> <p>福沢諭吉先生は「学問のすすめ」で独立自尊を主張しておられる。人間はまず、独立することが大切である。その第1歩が、家庭における幼児教育である。子どもは親の姿をみて育つといわれる。立派な成人になるためには、幼児の家庭における躰が大切である。</p> <p>現在の民主党のバラまき政策により、親としての責任、親としての社会への責任を放棄し、社会からの福祉施策の温情にひたすらすがり、寄生虫的生き方に終始している人を心より心配する。</p>	<p>ご意見として伺います。</p> <p>本計画は、子育てや躰に対する第一義的な責任が家庭にあることを前提として策定しています。しかし、社会構造や経済状況等が大きく変わる中で、子育ては家庭の力だけで担うことが難しくなっている現状があります。</p> <p>家庭の子育てに対する不安や負担感を軽減すると同時に、家庭の教育力や子育てする力を育てながら、子どもが健やかに育つことができるよう、社会全体で支援することが大切だと考えます。</p>

	意見等の要旨	区の考え方
18	基本計画の考え方や現状の課題の把握は概ね理解できる。しかし、取組みに関しては、既に実行している事業に関して説明不足であり、その効果も含めて具体的によくわからない。その事業の実効性が示されていないのに継続や拡充になっている。	ご意見として伺います。 各目標の主な事業については、「現況」として直近の実績を掲載しているところです。「効果」の検証については、行政評価（内部評価及び外部評価）による評価を行っています。
19	区の事業でも実質は、ボランティアが運営や実施をしているのに、行政が実施して今後も拡充すると提示されている点が納得できない。区民との協働という名において、安価に区民に仕事を押し付けている事例が多く、協働の意味が行政内に浸透していない。	ご意見として伺います。 本計画において、ボランティアや地域団体の方々の方々の活動に支えられている事業は多くあり、区民との協働は欠かせません。区と区民が、互いに持てる力を出し合い、一緒に考え実行しながら、課題を共有し、解決に努める必要があります。区民の皆さんと十分に話し合い、事業の実施に必要な条件整備を行いながら、進めていきたいと考えています。
20	国と同じように事業仕分けが必要である。	ご意見は、今後の取組みの参考とします。 本計画を推進する中で、成果の評価も含め、必要な事業を見極めていくことが大切だと思います。
21	素案ということなので、具体性にとぼしく、理念や理想が前面に出ていて、どの様な実行がなされるのか想像することさえ難しかった。	ご意見として伺います。 今後、区が取組む内容については、第2章の現状と課題、取組みの方向の中で、具体的事業も含め説明をしております。
22	「子育てしやすいまちだと思ふ人」の割合が前回よりもあがったことは喜ばしいと思う。新宿区の子育てに関する施策が効果を上げてきていることも一つの要因と考える。	ご意見の趣旨に沿って取組みます。 今後も、本計画に基づき、「子育てしやすいまち」と実感していただけるよう、取組みを進めていきます。
23	女性の社会進出がめざましい中で保育園の拡充等の盛り込まれた本案には基本的に賛意を表明する。ただし、以下の2点を慎重に検討して新宿区の特性を生かした施策を実行面で活用していくべきではないかと考える。 第一に、子育て親子の地域デビューあるいは、かかわりを応援するために多世代も含めた包括的な地域が連携できるシステムの構築が必要と考える。 第二に、新宿区は「やすらぎとにぎわいのまち」をめざしているとおおり、職・住・遊・学の隣接した新宿区の特性を反映させて新宿区内で住み、働き、購入（消費）し、娯楽を楽しむ、学ぶなど、生活のすべてが新宿区で賄えるシステムを構築することも大切である。 具体的には、新宿区に住み、子どもを区内の保育園に預け、お台場に仕事に行くよりは区内の事業所で働く方が魅力を感じる新宿区にすべきであり、その資源を大いに新宿区は持っていると考え。そういった点を施策実行面で補っていければと考える。	ご意見は、今後の取組みの参考とします。 ご提案いただいた2点は、いずれも重要な視点と考えています。 区では、保護者が孤立せず、地域の中で子育てができるよう、子ども家庭支援センター・児童館や、地域子育て支援センター、子ども園などで、乳幼児親子の居場所の充実を図っています。本計画でも、目標3「きめこまやかなサービスですべての子育て家庭をサポートします」で、「乳幼児親子の居場所の充実」を取組みの方向及び主な事業として掲げているところです。また、目標4「安心できる子育て環境をつくります」では、「世代間交流の促進」を取組みの方向のひとつとし、主な事業として地域住民の運営による「落合三世代交流事業」を掲げています。地域における様々な機会を捉え、多世代が交流できる場づくりを推進していきます。 また、本計画は、「新宿区基本構想」及び「新宿区総合計画」に基づく新宿区がめざましい姿を実現するための分野別計画です。新宿区の都市としての特性を活かしながら、家庭の多様なありかたを尊重しつつ、魅力ある「子育てしやすいまちづくり」の実現に向けて、引き続き努めていきます。
24	新宿が合計特殊出生率の低さで足を引っ張っている現状は重大である。世帯に占める「単独世帯の割合が高」という評価（p7）から、「結婚して子どもを持つとすると新宿を離れる」という実態がうかがわれる。現在子育てをしている世帯への実態調査だけではなく、「新宿を離れる理由」という角度での調査をすれば、解決の糸口が見えるのではないかと。	ご意見は、今後の取組みの参考とします。 合計特出生率は、少子化のひとつの目安であり、新宿区の合計特殊出生率を上げることだけが、本計画の目的ではありません。しかし、子育て世代が新宿区を「子育てしやすいまち」と実感してくださることが、これから子育てをする世代の定住や出生率の増加にもつながると考え、基本目標を設定しています。 子育て世代を含む幅広い年代の区民を対象とし、毎年度実施している「新宿区区民意識調査」の中では、定住意向の質問項目で「転出したい（しなければならない）理由」を調査しております。

2 目標1「子どもの生きる力と豊かな心を育てます」について

	意見等の要旨	区の考え方
25	<p>四谷地域は素案p15にあるように、とても子育てしやすい地域である。しかし、子どもが幼稚園に入るまでは、周りにどんな人が住んでいるのか一部の友達以外はわからず、ごく細い線のような結びつきだった。それが、幼稚園に入園して子どもを通して結びつきが面のように広がってきた。区立幼稚園の存在は、その地域においてもとても大きなものだと実感している。</p> <p>今年も、多くの方の応募があったそうだが、年少の定員があるため、入れない方がいるそうである。地域の小学校入学者を増やすためにも、地域の活性化のためにも、ぜひとも入園希望者全員を受け入れる体勢を整えてもらいたいと思う。</p>	<p>ご意見として伺います。</p> <p>四谷地域では、四谷第六幼稚園と花園幼稚園の2園で3年保育を実施しています。平成22年度入園募集では、3歳児定員17名のところ、四谷第六幼稚園では21名で抽選となり、花園幼稚園では応募者17名のため抽選はありませんでした。</p> <p>一方、私立幼稚園での受け入れは十分可能な状況です。教育委員会では、公私の格差を縮め保護者の選択肢の幅を広げるため、平成20年度より私立幼稚園保護者負担軽減補助金の保育料補助の所得制限を緩和するとともに、入園料と保育料の支給額を増額しました。従いまして、私立幼稚園も選択肢としてご検討をお願いいたします。</p>
26	<p>思春期の支援は、新しい発想でパーティ等でも始めてみてはどうか。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>区では、若者の未婚化・非婚化に対する対応策のひとつとして、コミュニケーション能力の向上などの支援を考えています。今のところ、結婚を目的としたパーティなどの出会いの場を設けることは予定していませんが、地域の各種行事やイベントなどを通して、年齢や性別を問わず、様々な人達が交流できる場を増やしていきたいと考えています。</p>
27	<p>p32に、教師の質のレベルアップがあるが、私が授業参観の折に感じたことをストレートに表現すると、教師の質が落ちていると思える。生徒が学ぶ内容を黒板に書いていくのみで、生徒がそれをきちんと理解しているかどうか？これを教室で判断しながらという様子が見えない。生徒は黒板の内容を写し取るだけで精一杯であるように思えたのは、私の少ない観察の機会ゆえであればよいと願っている。</p> <p>教師が教える内容・レベルが高くなり、ティーチングマシンのようになってしまわないか気がかりである。生徒と心が通じ合って人間的な対応ができる教師が、一人でも多く生まれることを願い、また、その対策を練って欲しいと思っている。</p> <p>p35の授業改善推進員に退職校長を採用される際には、前述の点を十分に配慮した人選をお願いしたい。校長であった前歴が態度や顔に出る方は適任でないと思う。人物本位であって欲しい。</p>	<p>ご意見として伺います。</p> <p>ご指摘のとおり、生徒と心が通じ合い、使命感と熱意をもった教員の育成は教育委員会及び学校の責務であると考えています。これまで、教育委員会が行う研修とともに、学校におけるOJTにより指導力の向上に努めておりますが、今後も一層充実に取り組めます。</p> <p>また、授業改善推進員は、若手の教員の育成に非常に有効であると学校から評価を得ており、今後も指導力・人物ともに適切な人物を配置します。</p>
28	<p>学校評価の充実が、現在の学校評議員制度でなし得るのか疑問であり、この制度も見直すべきである。更には学校評議員協議会も教育委員会指導で設置されていて、実質は何の役割も果たしていない。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>学校評価の充実、各学校の学校評価に対する適切な実施と、学校評議員等の学校評価にかかわる方々への趣旨や内容についての理解促進により図られます。</p> <p>教育委員会では、学校評価に関する指導資料等を作成し、学校のみならず学校評価にかかわることの多い学校評議員に対して配布し、その趣旨や内容の周知徹底を図っています。また、学校評議員に対し学校評価にかかわる説明会を行い、適切な学校評価が進められるよう努めています。今後も、学校評価の充実のために取り組んでいきます。</p>
29	<p>スクール・コーディネーターが明確な定義が見えず、設置している効果が伝わってこない。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>スクール・コーディネーターは、総合的な学習の時間の講師を探すなど、学校・家庭・地域のパイプ役となり、学校に地域の教育力の橋渡しをするために各学校に配置する区の非常勤職員です。</p> <p>スクール・コーディネーターは、学校の教職員よりも、地域の人的・物的資源に通じており、その人脈や知識を学校教育に活かすことで、より地域に根ざした教育活動が可能となります。平成16年度の事業開始以来6年が経過し、各学校に定着し、学校の教育活動に欠かせない存在となっていると考えております。教育委員会では、今後も研修会を定期的に開催するなど、スクール・コーディネーターの能力や意欲の向上を図り、新宿区の多様な資源を活かした教育活動の充実に努めてまいります。</p>

	意見等の要旨	区の方考
30	<p>教育センターの教育相談を退職校長などが担当する人材だとは思えない。教育相談は専門官を置くべきである。</p>	<p>ご意見は、今後の取り組みの参考とします。</p> <p>教育センターの教育相談室では、臨床心理士である専門相談員を5人配置し、教育相談を実施しています。</p> <p>ご指摘の退職校長は、相談が主に学校にかかわる内容であるときは、専門相談員に代わり学校教育の経験を活かした相談に応じる場合がありますが、主に不登校児童生徒の相談、つくし教室との連絡、スクールカウンセラーや学校との連絡調整及び相談業務の統計処理などの管理的な業務を行っています。</p>
31	<p>学校選択制による弊害が生まれている事を問題視するべきだが、問題の所在について言及がない。</p>	<p>ご意見は、今後の取り組みの参考とします。</p> <p>学校選択制度による弊害として、「学校間の児童生徒数に格差が生じている」「地域の繋がりが薄れている」などの声があることは認識しています。しかし、これらの傾向は学校選択制導入以前からあり、必ずしも制度導入で生じたものとは考えていませんが、教育委員会としては、これらの課題が解消されるよう、制度の充実に努めてまいります。</p>
32	<p>学校選択制は地域で育つべき子どもを地域から引き離す結果につながっている。特色ある学校といっても、現行の適正配置推進の中では、結局本当に特色のあるものは難しいのではないかと。</p> <p>また、未就学児の親に、それほど確かな価値観や選択眼があると思えない。(自分自身をいりかえってもそうだったと思う)</p> <p>選択制の評価のアンケートは、2年生の保護者だけでなく、もっと幅広い範囲でとって評価してほしい。(地域や先生方など)</p>	<p>ご意見は、今後の取り組みの参考とします。</p> <p>小学校の学校選択制度は、隣接校選択制として、地域性を考慮した制度としています。また、導入後、毎年実施している新1年生保護者アンケートによれば、学校選択制度を活用した理由として、「子どもの友人関係」「通学の距離・安全」など、子どもの学校生活を考慮したものが上位となっています。</p> <p>なお、平成22年度は、新1年生保護者に加え、学校や地域団体を対象に学校選択制度等に関するアンケート調査を行う予定です。</p>
33	<p>新宿区だけでは変えられないことだが、現行の40人学級を30人学級にして欲しいと思っている。せめて、確かな学力向上の教員をもっと確保するとともに、全教員の質の向上であるが、雑用に追われて子どもと向き合う時間がないということがないよう、教員や学校運営の改善をして欲しいと思う。</p>	<p>ご意見の趣旨は計画に取り込んでいます。</p> <p>ご指摘の通り、区独自に30人学級にすることはできませんが、区は、これまででも少人数学習指導などを行うため確かな学力推進員(区費講師)を全小・中学校に配置し、確かな学力の向上を図っています。</p> <p>また、教員の経験と職層に応じた体系的な研修を実施するとともに、授業改善推進員(退職校長)を学校に派遣し、教員の授業力の向上を図っております。さらに、学校のICT環境を整備し、教員の校務の効率化を図るなど、教員が子どもと向き合う時間の確保に努めていきます。</p>
34	<p>学校の放課後事業の運営が、経験のない人や専門性のない人で賄われている事で生じている問題点が取り上げられていない。また、学童クラブの充実を目指しているが、放課後事業にシフトしている児童が居ることを認識すべきである。</p>	<p>ご意見は、今後の取り組みの参考とします。</p> <p>放課後子どもひろば事業の目的はもちろん児童の健全育成ですが、地域人材の活用効果にも期待しています。そのため、経験や専門性にこだわらず広く人材を求めています。</p> <p>スタッフの研修等による資質の向上を目指すとともに、児童館職員による専門的支援と情報の共有化や連携事業により、今後も改善に努めていきます。</p>
35	<p>児童館を、指定管理者制度の活用を拡大する方向であるが、児童館における指定管理者制度が適か否かの検証がされていない中での拡大がよいのか疑問である。放課後子どもひろばも拡充の方向で両者の連携も予定されているが、区で責任を持って育ちを保障すべき子どもへの支援を専門性(質の問題)が保障されていない組織に移管して良いのか疑問である。</p>	<p>ご意見は、今後の取り組みの参考とします。</p> <p>区では、民間のアイデアや活力を生かした児童館運営をめざして、指定管理者制度の導入をすすめています。平成22年度は、平成21年度に初めて制度を導入した児童館について、効果や運営内容を検証し、今後の運営に生かしていく予定です。</p> <p>また、民間と区の直営児童館・学童クラブでは、研修や会議を通じて情報の共有化や職員等の資質の向上を図っています。民間事業者任せではなく、区も一緒に子どもの安全で快適な居場所をつくるべく努力していきます。</p>

3 目標2「健やかな子育てを応援します」について

	意見等の要旨	区の考え方
36	<p>「学齢期から思春期までの健康づくり」の事業に含まれる、喫煙防止や薬物乱用防止などは、ぜひ徹底して行ってほしいと思う。</p>	<p>ご意見の趣旨は計画に取り込んでいます。 今後も、健康部と教育委員会が連携を図り、また、警察署等関係機関の協力を得ながら進めていきます。</p>
37	<p>新宿区の合計特殊出生率は、全国的にみてもかなり低い値であり、子育ての充実サービスはもちろんだが、「子どもに恵まれない人」への助成もお願いしたい。</p> <p>私自身は、不妊・習慣流産の経験者だが、まだまだ知られていないこの分野で助成していくのは、全国的に見てもよい試みではないだろうか。不妊治療は、保険がきかず、高い治療費を払っているのが現状である。今の段階の助成よりも、もっと充実させて、サービスを向上させていけば、人口も多くなり、子どもの出生率もあがるのではないだろうか。</p> <p>具体的には、一人目、二人目の不妊の女性には誰でも、治療費相当の助成をすることである。治療費が高くて、子どもをあきらめなければならぬ夫婦が、新宿区なら子どもが持てるという希望があれば、より次世代の育成がなされるのではないだろうか。出生率の根本の分野でのサービスを望みたいと思う。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>不妊治療に対する経済的支援として、区内4箇所の保健センター及び健康推進課の窓口にて、東京都特定不妊治療費助成事業のご案内をしています。また、精神的な側面を支えるために、各保健センターで、医師や保健師等が相談をお受けしているところです。</p> <p>新宿区独自の助成制度については、母子保健施策全体の充実を検討していく中で、一般不妊治療への助成制度についての調査研究を行っていきます。</p>
38	<p>【目標3の内容も含む】</p> <p>発達に心配のある子どもを早期から支援していく体制を充実させて欲しい。</p> <p>乳幼児健診にて支援の必要性を早期発見しながら、その後のフォローアップ体制が不十分なため、子どもたちのよりよい予後につなげていくことが難しい現状がある。心配があることを保護者に伝えるには、その後の対応をセットにすることが絶対に必要である。また、相談に訪れた保護者に対しても、受け皿に限りがあることから「様子を見ましょう」で時が過ぎていき、就園・就学等を機に支援の必要性が生じた時には、問題が大きくなってしまっていることも多くみられる。「あの時何らかの対応を始めていれば・・・」と後悔するというケースが、少しでも減るようになって欲しいと思う。</p> <p>子ども発達センターの機能強化が実現するとのことで、大いに期待している。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>区ではお子さんの発達について心配があることを保護者に伝える際、その後の支援へ早期かつ確実に繋ぐことが重要と考えております。</p> <p>保健センターでは、1歳6か月児健診・3才児健診等で「こたばか遅い」、「落ち着きがない」など発達に心配があるお子さんについては、保健センターで実施している「幼児相談(心理士による相談)」や「すこやか子ども発達相談(小児発達専門医による相談)」でより専門的な相談を行っています。また、必要に応じて医療機関へのご紹介や、継続的な発達支援が必要な場合には、子ども発達センターへご紹介しています。</p> <p>子ども発達センターでは保健センター等の関係機関と十分な連携を取るとともに、保護者からのご相談には必ず来所に対応し、継続的な支援が必要な場合には、定員の弾力化を図りながら、個別指導や親子通所グループへの支援に繋がっています。また、継続的な支援が必要ない場合には、定期的な電話相談等のフォローアップをしています。</p> <p>平成23年4月の新施設移転後には、更なる機能強化を実現していきます。</p>

4 目標3「きめこまやかなサービスですべての子育て家庭をサポートします」について

	意見等の要旨	区の考え方
39	父子家庭への支援ができるようになってよかったと思う。	ご意見の趣旨に沿って取組みます。 父子家庭への支援について、本計画に基づき、着実に取組んでいきます。
40	子ども家庭課の電話を知らせて、できるだけ、いじめ虐待を助けてい。	ご意見の趣旨に沿って取組みます。 区では、児童虐待の第一義的な通報及び相談窓口として、子ども家庭支援センターの充実を図っています。また、いじめに関する相談窓口として「子どもほっとライン」や教育センター教育相談室があります。地域の方々と協力しながら、いじめや児童虐待の防止に取組み、早期発見・早期対応に努めていきます。
41	<p>外国籍の子どもの教育は、単に日本語の理解だけでは済まされない。私のつたない経験からも、言葉と勉強を教えるだけでは済まない。中学生は人間形成の最も大事な時期であり、この3年間の先生を含む大人の対応の仕方一つが人生の多くを決めてしまうのではない。</p> <p>この意味で、外国籍の子どもは、親との会話が少ないために発生する問題が多いと思う。学校の先生にも十分な配慮をお願いしたい。</p>	<p>ご意見として伺います。</p> <p>ご指摘のとおり、外国籍の子どもに必要な支援は、言葉と学習だけではないと考えています。</p> <p>そのため、P70で「特に配慮が必要な子どもと家庭のために」の「③外国人家庭」において、「学校生活への適応指導も含めた日本語サポート指導」の実施や、「保護者と子どもの言語力の差などによる、外国人家庭における家族間のコミュニケーションの難しさ」を問題提起した上で、保護者の悩みに応じた子育て支援の必要性について述べています。</p> <p>主な事業の「日本語サポート指導」では、区立学校に編入した外国籍等の子どもに対し、日本語や学校（園）生活に関する適応指導を行うほか、日本語学習支援ボランティアを配置し、学習支援も行っています。素案に掲載していなかった「日本語学習支援ボランティア」に関する部分については、追記します。</p> <p>また、保護者会への通訳派遣や学校文書の翻訳支援を行うなど、親と子ども両者への適応支援を行っています。</p> <p>今後も、本計画及び教育ビジョンに基づき、取組んでいきます。</p>
42	<p>わかりやすい相談環境の整備と相談事業の専門性の向上について</p> <p>平成25年には32万人になる見込みである。そのうち1割は外国人である。外国人の子どもと親と気軽に相談できる相手である区役所、相談し合える環境が必要だと思う。</p>	<p>ご意見として伺います。</p> <p>新宿区では、新たに新宿区民となる外国人の方に配布している新宿生活スタートブックや外国語ホームページ等で、外国人の方が気軽に相談できる「外国人相談窓口」について周知しています。また、利用者の視点に立った相談環境の整備の一環として、新宿区役所1階で、日本語による相談のほか、韓国語・中国語、英語による相談を実施するとともに、しんじゅく多文化共生プラザでは、これらの言語に加えて、タイ語・ミャンマー語による相談を行ってきています。そして、その結果として、年間204件の保育や教育、子育て支援等に関する相談を受けているところです。</p> <p>また、これまでの相談内容については、データベース化してその蓄積を図るとともに、専門性の高い相談や複雑な相談に対しては、各部署とも連携を図り、対応してきています。</p> <p>ご指摘の「気軽に相談できる相手である区役所、相談し合える環境」は大切なことであると考えます。引き続き、利用者の視点に立った取り組みを進めていきます。</p>
43	<p>保育園入園希望者が全員入園できるよう、認可保育園及び認定子ども園を整備して欲しい。</p> <p>待機児童の増加分に迅速な様々な対応を始めていただき、感謝している。さらに進めていって欲しい。定員増をしても待機児童がなくなることはないのは、経済状況もあるが、定員が増えることにより、今まで「保育園は無理だから・・・どうせ入れないから・・・」と就労をあきらめていた人たちの需要が掘り起こされている現実がある。数字に表れている「待機児童数」分を増やすだけでなく、こうした潜在需要も見越した、認可保育園の整備をお願いしたい。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>区では、待機児童解消を最重要課題のひとつとして、全庁的に取組んでいます。平成23年度までの第一次実行計画期間中の計画事業についても、私立保育園や子ども園の新設、認証保育所の増設等、着実に推進しています。また、緊急対策として、保育ルームの設置等、機動的な対応を図っています。今後も、待機児童解消に向け、取組んでいきます。</p>

	意見等の要旨	区の考え方
44	<p>「就学前児童保護者の7割が就労を希望」とのことである。「8割」を認可保育園、保育ママ、認定子ども園、区立・私立幼稚園の預かり保育、およびそれぞれの一時保育機能を合わせてまかなえるよう、整備をお願いしたい。また、その分担を区としてどう考えているのか、それぞれの割合を数値として示して欲しい。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>平成21年5月現在の4歳児で見た場合、児童数(1,590名)に対して、区立幼稚園24%(378名)、私立幼稚園31%(500名)、区立子ども園3%(50名)、保育園38%(611名)という構成になっていますが、保育園、子ども園で長時間保育を、区立愛日幼稚園及びほとんどの私立幼稚園では、預かり保育を実施しています。</p> <p>就学前児童への保育サービスの質の確保・受け入れ数の確保、さらに多様な保育サービスの充実、計画的に推進していく課題です。区では、待機児童解消対策とともに、実行計画に基づき着実に推進していきます。また、今後、多様なスタイルの「子ども園」の導入を検討するなど、就学前保育・教育の充実を図っていきます。</p> <p>従って、これまでの幼稚園や保育園といった枠組みを前提とした考え方は取れないため、その数値をお示しすることは困難です。</p>
45	<p>認可保育園に入所できる「保育に欠ける要件」を満たしている子どもは、全て入園できるよう、認可保育園を整備して欲しい。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>区では、待機児童解消を最重要課題のひとつとして、全庁的に取り組んでいます。平成23年度までの第一次実行計画期間中では、私立認可保育園や子ども園の新設、認証保育所の増設等、着実に推進しています。</p>
46	<p>4月入園だけでなく、それぞれの家庭の事情に合わせて年度途中でいつでも復職・就職できるよう、余裕をもった定員設定にして欲しい。4月に0歳児クラスで有利に入園できるよう、産み月を調整することが当然のような風潮さえある。入園に不利そうなタイミングでの妊娠を見送っているうちに妊娠しにくくなるという話も聞く。いのちの始まりが、そんなことに左右されていてよいのか。認可保育園の整備は、いのちの始まりを支える大事な事業である。</p> <p>余裕をもった定員設定により、きょうだい別園での保育などという、本来不自然な措置はなくなるのではないかと。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>区では、待機児童解消を最重要課題のひとつとして、全庁的に取り組んでいます。待機児童の現状を考えると、現時点で、確実に年度途中の入園に対応することは困難な状況です。</p> <p>しかし、年度途中で復職される方には産休・育休明け入所予約制度として、0歳クラスの入所枠を設けています。また、平成22年度からは、早生まれのお子さんの入所予約も開始していきます。</p>
47	<p>認証保育所の誘致はもちろん大切である。しかし、認可保育園での保育を希望している家庭が、認証保育所を選択せざるを得ない状況になっている。認証保育所は、認可保育園の役割を補完するもの(認可保育園でカバーできない長時間保育、あるいは認可保育園入園の就労基準に満たない働き方等に対応するため)であり、代わりになりえるものではない。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>区では、待機児童解消対策として、これまで認可保育所の定員拡大及び認証保育所の増設に取り組んできました。認証保育所は、施設基準が認可保育所に準じた基準であり、13時間以上の開所や0歳児保育の実施が義務づけられているなど、通常保育に加え、多様な保育ニーズに応える上でも大切な役割を担っています。</p> <p>今後も、認可保育所の整備とともに、様々な就労形態やライフスタイルにあった柔軟性のある保育需要に応えるため、認証保育所の整備も進めていきます。</p>
48	<p>(認可保育園の)定員の弾力化に伴い、職員増をする場合には正規の職員を充てて欲しい。臨時職員等不安定な雇用のもとでは、職員の質の維持が難しい。大事な子どもたちを保育していただく保育士の先生方である。保育の質に直結する問題である。是非、安定した雇用をお願いしたい。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>区ではこれまで職員研修を計画的に実施し、保育の質の確保に努めてきました。今後も子どもの保育や保護者への支援に必要な知識・技能の向上を図り、人材育成を進めていきます。</p> <p>なお、保育園の運営にあたり、定員の拡充や長時間保育の実現などのためには、正規職員以外の職員も活用することが必要です。保育に従事する職員全般の人材育成に努め、保育の質の維持・向上を図っていきます。</p>

	意見等の要旨	区の方考え方
49	<p>認可保育園入園希望者が全員入園できるまでは、入園者の状況を公表して欲しい。「求職未定」で入園可能となっているのにもかかわらず、「求職未定」では入園が叶わないのが現状である。「出産」要件でも同様である。フルタイムではない就労の場合も難しい。「保育に欠ける要件」を満たしているのに入園ができないのは、理屈に合わない。各園の入園決定者の、入所会議での点数（平均値、最高値及び最低値）を公表し、説明責任を果たして欲しい。また、入園できなかった人の点数も同様に公表して欲しい。点数を公表することで、認可保育園増設の必要性が明確になると考える。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>保育園の入園状況は、地域及び施設によりかなり状況が異なっています。フルタイムの方でも入園できない園もある一方で、求職やパートタイム、出産等の理由で入園可能な園もあります。</p> <p>なお、保育園入園相談の際には各園の空き状況や申込状況をお示ししています。保育の実施指数の公表については、今後の検討課題とさせていただきます。</p>
50	<p>高所得世帯は認証に預けることで、就労を維持し、認可園への入園ポイントも加算になるので、認可園にも入りやすい。所得の低い家庭では、保育料の負担が大きくなるので、離職を余儀なくされるケースも多い。また、仕事のない段階で、認証に預けて求職活動するのは、経済的に厳しい。この格差を是正するためにも、認可園に預けた場合と同額の負担で済むよう、予算を拡大して欲しい。</p> <p>千代田区では、認可保育園の保育料の8割の額で認証に預けられるような助成があると知り、驚いた。</p> <p>空きなしで認証の月極利用すらできず、様々な場所での一時保育やベビーシッターで就労をつないでいる場合にも、同様に助成をお願いしたい。今の仕組みでは、困っている人ほど、支援が手薄になっていると感じることがある。</p>	<p>ご意見として伺います。</p> <p>区では、現在、認証保育所・保育室・家庭福祉員の認可外保育施設の利用者に保育料助成を行い、利用者の負担軽減を行っています。また、平成21年度には、認可園だけでなく、認証保育所・保育室・家庭福祉員、保育ルームを利用している第3子目以降の保育料無料化も実施いたしました。</p> <p>経済的な困難を抱える方にも、保育施設を利用しやすいしくみづくりが大切だと考えております。待機児童解消策と合わせて、引き続き、努力してまいります。</p>
51	<p>一時保育の充実をお願いしたい。</p> <p>24時間365日、休みなくの「親業」では、楽しめるはずの子育てにも限界がある。レスパイトを希望する人が、希望日時に利用できるよう、一層の充実をお願いしたい。また、一時保育をレスパイトに利用できることを、全ての子育て中の人が認知できるよう、もっと広報して欲しい。</p>	<p>ご意見の趣旨は計画に取り込んでいます。</p> <p>一時保育は、在宅で子育てをする保護者のリフレッシュ利用も含め、育児不安や負担を軽減するための事業としてニーズが高いものと捉えています。</p> <p>今後、区立保育園の民営化や子ども園化、また園舎の増改築の機会に、専用室の設置を検討し、利用しやすい一時保育の拡大に向けて取組んでいきます。また、一時保育が、緊急時だけでなくリフレッシュ利用にご利用いただけることについても、引き続き周知してまいります。</p>
52	<p>認可保育園の空き室利用型保育は、定員の空かない現状、ほぼ機能していない。専用室型も非常に高い倍率の抽選があり、これをあてにして仕事をすることは不可能に近い。それを、今回の報告のように「あたかも機能しているかのよう」に記載するのはやめて欲しい。制度として存在することと、実際、どう稼働しているのかを併記するようにして欲しい。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>一時保育は、在宅で子育てをする保護者の育児不安や負担を軽減するための事業として、保護者のニーズが高いものと捉えています。</p> <p>今後、区立保育園の民営化や子ども園化、また園舎の増改築の機会に、専用室の設置を検討し、一時保育の拡大に向けて取組んでいきます。利用しやすい保育サービスとなるよう検討してまいります。</p>
53	<p>子どもが健やかに育つために、母親としてやれるだけのことをやっつけてこうと日々試行錯誤している。しかし、子どもにとって長い時間過ごす場所である保育園の行き先が安定しないままでは、心の健康に影響があるのでは、ととても心配である。</p> <p>私自身、新宿区で生まれ育ち、新宿区にはとても思い入れがあった。しかし、保育園問題に見通しが立たない今、「新宿区から引っ越すか」「二人目を生むことなどとても無理だ」などと毎日暗い気持ちでいる。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>区では、待機児童解消を最重要課題のひとつとして、全庁的に取組んでいます。平成23年度までの第一次実行計画期間中の計画事業についても、東五軒町保育園及び四谷保育園の定員拡大、私立認可保育園や子ども園の新設、認証保育所の増設等、着実に推進しています。</p> <p>今後も、安心して保護者や子どもが保育園を利用できるよう、環境整備を進めてまいります。</p>

	意見等の要旨	区の考え方
54	<p>計画の素案を読ませていただいた。第1子が2歳で、これから第2子をとら思いつつフルタイムで働く母としては、とにかく保育園に子どもを預けたいと思う人がすべて、スムーズに入園できる未来であってほしいと思う。兄弟でも違う園だったり、2月生まれの子もだと1歳児の4月入園は超激戦という現状を、一刻も早く改善してほしい。</p> <p>私も復職のとき、区役所の方にとてもよく相談にのってもらい助かった。どこに相談したらわからないお母さんもたくさんいることと思う。なんでも相談系のようなシステムをもっと広めてほしい。メールで保育園の空き状況を教えてくれたり、知りたいことをピンポイントで答えていただければありがたい。区が人と人をつなぐ交差点になってくれたらと思う。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>区では、待機児童解消を最重要課題のひとつとして、全庁的に取り組んでいます。平成23年度までの第一次実行計画期間中の計画事業についても、区立東五軒町保育園、四谷保育園の定員拡大、私立認可保育園や子ども園の新設、認証保育所の増設等、着実に推進しています。また、緊急対策として、保育ルームの設置等、機動的な対応も行っています。</p> <p>保育園入園に関する相談は、保育課入園係で行っています。認可保育園以外の認証保育所、保育室、家庭福祉員などについての情報もお知らせし、アドバイスしています。なお、保育園の空き状況は新宿区のホームページで公開するとともに入園係窓口で配布しています。</p> <p>今後も、利用しやすい保育園整備と、入園相談等の充実に向け、取り組んでいきます。</p>
55	<p>目標3「きめこまやかなサービスですべての子育てを応援します」の、保育園待機児童解消策をぜひ早急にお願ひしたい。長男夫婦が2歳児と0歳児を育てているが、下の子は保育園に入れず自分が世話をすることになった。要介護の家族を抱え困っている。一日も早く待機児0を目指して欲しい。</p>	<p>ご意見の趣旨は計画に取り込んでいます。</p> <p>区では、待機児童解消を最重要課題のひとつとして、全庁的に取り組んでいます。平成23年度までの第一次実行計画期間中の計画事業についても、私立保育園や子ども園の新設、認証保育所の増設等、着実に推進しています。また、緊急対策として、保育ルームの設置等、待機児童数の増加傾向を見据え、機動的な対応を図っています。保育園に入れず、困っている方が多くおられることは認識しており、今後も、本計画に基づき、待機児童解消に向け、取り組んでいきます。</p>
56	<p>現在、私は信濃町の分園に子どもを通わせ、仕事に復帰している。住まいは牛込地区なので、園まで混雑した電車を使い継ぎ、40分かかって通っている。期間限定の園であることに当惑したが、この期間に新宿区が待機児童を減らす努力をしてくれるのではという期待を持っていた。1年2年あれば、何か対策が取られるのではと。ところが、牛込地区の保育園において、2歳児クラス、3歳児クラスの定員は1人も増えていない。</p> <p>四谷保育園の定員拡大・大京町の新設保育園によって、分園の児童の受け皿は事足りるというのが区の考え方と聞いた。しかし、分園には、地元の四谷だけでなく、牛込地区から通っている人がとても多い。子どもの体力面・ストレスを考えるとこれ以上遠い保育園には移れない。計算式では解決できていても、現実には即していないのではないかな。</p> <p>牛込地区の定員拡大、保育園新設ができないのなら、せめて、分園の継続をお願いしたい。保育課の方から、保育園を作るには、3年かかる聞いた。時間がかかるからすぐには解決できないというのではなく、時間がかかるからこそ、今、対策を取っていただきたい。分園のように既存の建物を利用するなど、手段はあるのではないかな。子どもにとって大切なのは、新しい建物ではなく、中身だと思う。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>信濃町保育園分園は、待機児童解消に向けた緊急対策のため開設しましたが、再開計画の計画区域内にあることから2年間の暫定施設としました。</p> <p>地区再開による施設使用期間終了後の受け皿として、平成23年4月に牛込地区では東五軒町保育園、四谷地区では、四谷保育園で計約150名の定員拡充や平成23年10月の大京町保育園開設による80名の拡充を予定しています。区では、今後も、待機児童解消に向け、取り組んでいきます。</p>
57	<p>会社の同僚が、子育てと仕事の両立に悩んでいる。今の子育ては、次世代の日本をつくる人的資源となるので、ぜひとも四谷にある保育園の継続延長をお願いしたい。保育園なくしては、同僚は子育てと仕事を両立させることはできない。</p> <p>日本の未来のために子供を生みやすい環境を整えていただきたいと切に願う。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>信濃町保育園分園は、待機児童解消に向けた緊急対策のため開設しましたが、再開計画の計画区域内にあることから2年間の暫定施設としました。</p> <p>地区再開による施設使用期間終了後の受け皿として、平成23年4月に牛込地区では東五軒町保育園、四谷地区では、四谷保育園で計約150名の定員拡充や平成23年10月の大京町保育園開設による80名の拡充を予定しています。区では、今後も、待機児童解消に向け、取り組んでいきます。</p>

	意見等の要旨	区の考え方
58	<p>現在、信濃町分園に通っている。駅にも近く、職場にも通いやすいロケーションであり、母子ともに助かっている。しかし、閉鎖予定の分園の近くには保育園がなく、待機児童がたくさんいて、近隣保育園に入園できる希望がない。大京町の保育園の新設は、自分の住む牛込地区から通園できる距離ではなく、また、入園できる可能性は保証されないと保育課から説明を受けた。悪天候や長距離での移動を考えると、大変危険であり、また、子どもが友達や先生と別れることも悲しくつらい。新しい環境に馴染むには、時間と努力が必要である。</p> <p>牛込地区、あるいは分園近隣からも安全で安心に通える保育園を設置して欲しいと希望する。また、分園の解体は緊急必須のことなのか疑問であり、まだ使えるように思う。新たに保育園を作るより、改修しながらできるだけ長く使う方が安上がりである。四谷保育園の拡充時に、費用をかけて使用可能な状態にするのだし、改修するのはもったいない。</p> <p>区長に四谷まつりで直接お話をさせていただいた。「分園については、必ず繋がります！」と断言していただき、心強く思っている。よろしく願いたい。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。</p> <p>信濃町保育園分園は、待機児童解消に向けた緊急対策のため開設しましたが、再開計画の計画区域内にあることから2年間の暫定施設としました。</p> <p>地区再開による施設使用期間終了後の受け皿として、平成23年4月に牛込地区では東五軒町保育園、四谷地区では、四谷保育園で計約150名の定員拡充や平成23年10月の大京町保育園開設による80名の拡充を予定しています。区では、今後も、待機児童解消に向け、取組んでいきます。</p>
59	<p>子ども手当では、区ではなく国政のことだが、一歩進んだことで非常に良いと思うが、支払いについては個々の家庭に渡すのではなく、学校に渡すようにすべきだと思う。個々の家庭に渡すと、子どもよりもその家庭の事情につかわれることもあると思う。</p>	<p>ご意見として伺います。</p> <p>子ども手当創設の趣旨は、子どもを持つすべての家庭が、ゆとりと責任をもって子育てができるよう、社会的全体での支援を行うことです。子育て家庭への経済的支援もその趣旨に含まれていると考えています。</p>
60	<p>しんじゅく多文化共生プラザが多くの外国籍の人々に利用されているが、歌舞伎町にあるために子育て中の親や青少年にとって利用できない場所になっている。外国版生活情報誌の発行は評価できるが、必要な人々に渡らず、配布方法を考えるべき。</p>	<p>ご意見として伺います。</p> <p>外国人が多く住むことは、新宿のまちの特性のひとつであり、新宿に住み・働き・集う、多くの人々が訪れる歌舞伎町に、しんじゅく多文化共生プラザが設置されていることは、大きな意義を持つものと考えています。また、現在、歌舞伎町では、「新たな文化の創造」、「アメニティ空間の創出」、「誰もが安心して楽しめるまち」を目指して、商店街振興組合や事業者、区・警察・消防等、関係行政機関が一体となった「歌舞伎町ルネッサンス」の取り組みが進められています。</p> <p>しんじゅく多文化共生プラザで実施している「しんじゅく子ども日本語クラス」等には、子どもや親子連れの利用者もありますが、より多くの子どもや親子連れが気軽に利用できるよう、「歌舞伎町ルネッサンス」の取り組みを通して、プラザ周辺環境整備を行っていきたいと考えます。</p> <p>また、生活情報誌は、区役所の外国人登録窓口待合室を中心に、区施設等で配布するだけでなく、外国人が多く集まる日本語学校や教会などにも積極的に配布しています。今後も情報を必要としている外国人に広く行き渡るよう配布先の拡大に努めていきたいと考えています。</p>
61	<p>子ども日本語教室でボランティア活動をしている者であるが、活動に多くのエネルギーを割いているが、今後の実施に向けて検討に加わることも出来ず、責任を負わされている割には、実質的検討に参加できない。これは、区民を単なる人手としか考えていない表れと思う。</p> <p>外国にルーツのある子どもへの支援をどうするかとかどのような子どもに育てて欲しいかという新宿区の方向性が見えない。子育て支援に関しても方向性が分からない。</p>	<p>ご意見として伺います。</p> <p>現在、子ども日本語教室は、新宿文化・国際交流財団に事業を委託し、実施しています。多くのボランティアの皆さんに係わって頂き、区としても感謝しています。</p> <p>子ども日本語教室の中での皆さんのご意見は、コーディネートをお願いしているボランティアの方から随時伺っており、施設の利用等に関し、これまでも対応してきているところです。引き続き、事業に反映していくよう、区としても(財)新宿文化・国際交流財団と意見交換を行ってまいります。</p> <p>また、外国にルーツを持つ子どもをはじめとして、どの国の子どもであっても、子どもの育ちや年齢にふさわしい教育を受けることや、そのための環境整備をしていくことが大事であると考えています。このような視点から、区として、引き続き、教育や子育て支援を行っていきます。</p>

5 目標4「安心できる子育て環境をつくります」について

	意見等の要旨	区の考え方
62	<p>目標理念に「家庭・地域・学校が子どもを育てる取組み」とある。私が子どもの頃、家庭・地域での「躰」をしてもらい、現在がある。挨拶ができるようになった。そこで子どもは親の背を見て育つと言われている。子どもの親達の教育・常識のクローズアップが必要だと思う。親（父母）の教育をしていただきたいと思う。知らない人と話をしない、個人情報に関係もあり、親子に声を掛け「こんにちわ」と挨拶をするも、無視されることが多い。私は親に仕込まれた。</p>	<p>ご意見の趣旨は計画に取り込んでいます。 家庭・地域で、子どもを育てる視点は大切であり、本計画のビジョンのひとつにも、「支えあいの子育てから新しい出会いと世代を超えた交流が生まれるまち」を掲げています。 親も子どもも、様々な人たちとの関わりにより、育っていきます。目標4で主な事業として掲げている「地域の教育力との連携」や、「家庭の教育力向上支援」などの取組みを通じて、地域の人たちと共に、親や子どもが学ぶ機会を増やしていきたいと考えています。</p>
63	<p>四谷地区協議会でも、子育て支援について協議し考えている第2分科会では、子育て中の親（家庭）をどのように地域で支え、どのように地域に参加していただけるかを中心に検討している。 9月には、乳幼児支援企画を四谷地域の乳幼児支援機関がこそって協力し、協議会に交付されたまちづくり活動資金を活用し、成功させた。その企画運営の中では、乳幼児の保護者に地域の情報提供ができ、もっと乳幼児の保護者が地域のコミュニティに参加し、あるいは形成していくことができるシステム構築が必要ではないかとの声も聴かれた。</p>	<p>ご意見の趣旨に沿って取組んでいきます。 地区協議会で、地域課題の特徴を踏まえながら、子育て支援を課題として、熱心にご検討や取組みをされていることに心より感謝申し上げます。 ご意見のとおり、乳幼児の保護者の方に、地域の情報提供を行い、地域に参加し、コミュニティを形成していくしくみづくりは大切だと考えます。地域の皆さまのご協力をいただきながら、区としても本計画に基づき取組んでいきます。</p>
64	<p>地区協議会でも次世代育成について協議し、さまざまな活動を検討していきたいと考えている。そして、育成会をはじめとする次世代育成に関与する地域諸団体と力を合わせ活動することにより、相乗効果を得ることができると確信している。行政においても、このような連携により、一層ご協力をいただけるようお願いしたい。</p>	<p>ご意見の趣旨に沿って取組んでいきます。 区としても、地区協議会をはじめ、様々な地域団体の皆さまとの連携が、より有効な次世代育成支援の推進につながると考えています。 区では、地域の力をより効果的に活かせるよう、庁内の連携を図りながら、様々な地域団体との調整に努めていきます。</p>
65	<p>安全・安心の点 親子、特に一般の大人・高齢者に自転車の乗り方を地域で開催する仕組みを警察署関係にも協力を得て実施を要請して欲しい。 現実では、死亡、骨折重症の事故が多く発生して問題である。賠償保険の問題では、加害者にならない。自転車対策を真剣に考え、この支援計画に折り込んで欲しい。</p>	<p>ご意見は、今後の取組みの参考とします。 自転車のルールやマナーの普及・啓発については、小学生を対象にした「子ども交通安全自転車教室」をはじめ、区内の事業所や高齢者等を対象に、交通安全講話等を警察と連携して実施しています。ご指摘のとおり、近年、高齢者や自転車の交通事故の割合が増加していることから、高齢者を対象とした交通安全教育の場を増やしていけるよう、警察にも要請していきます。また、区の広報やホームページ等を活用し、広く自転車ルール、マナーの普及をPRしていきます。 今後も、子育て中の方や子どもを含め、安心して暮らせるまちづくりを目指して、取組んでいきます。</p>
66	<p>環境教育の大切さ、CO₂を削減するように協力する。新宿区が、子育てしやすい区になるように努力していることがわかった。</p>	<p>ご意見の趣旨に沿って取組んでいきます。 目標4-5の「未来の子どもたちへの環境づくり」では、具体的な取り組みとして環境教育や地球温暖化対策の推進等について掲げています。 子どもの頃から、環境への関心を持ち、環境を大切にすることが大切と考えます。このため、子どもたちが、日常的に地球環境に関心をもつ環境づくりや、環境学習の機会を提供していきます。</p>
67	<p>私は四谷地域に住んでおり、子育てをするには恵まれた地域だったのだと改めて実感した。 しかし、まちのバリアフリー化はまだままで、道路の段差、エレベーターの有無、歩きタバコの大人が少なくないというのが現状である。未来の子どもたちのために、大人のマナーを直していく必要もあるのではないか。</p>	<p>ご意見は計画に反映させます。 道路の段差、エレベーターの設置等については、交通バリアフリーの推進や、ユニバーサルデザイン・ガイドラインの策定などを通じて、取り組んでいきます。 歩きタバコについては、「新宿区空き缶等の散乱及び路上喫煙による被害の防止に関する条例」に基づき、路上喫煙禁止の啓発活動に取り組んでおりますが、今後も、引き続き力を入れて推進していきます。 ご意見のとおり、子どもの安全・育成環境を守るとともに、大人のマナーが子どもの良いお手本となるような取組みが必要と考えてます。 ご指摘のような現状があることを、本文中に追記します。</p>

6 目標5「ワーク・ライフ・バランスが実現できる環境づくりを推進します」について

意見等の要旨		区の考え方
68	ワーク・ライフ・バランスが取り上げられたことはよかった。男女がともに自分らしく生きることと共に、仕事を休める環境を作ることが大切である。	ご意見の趣旨に沿って取組んでいきます。 ワーク・ライフ・バランスが、名実共に実現できる社会になるよう、企業・地域の方々に、広く働きかけてまいります。仕事を休める環境づくりには、働く人自身の働き方の見直しと、雇主の意識改革、社会全体のコンセンサスが必要だと考えます。ワーク・ライフ・バランス推進に関連する事業については、本計画の施策体系に位置付け、引き続き推進していきます。
69	多様化する保育ニーズとワーク・ライフ・バランスについて、延長保育のニーズがあることは事実だが、おそらくそのうち一定の割合は、「本当はサービス残業を切り上げて、子どもとの時間を増やしたいが、会社にものを言いにくい」という結果としての表面的な「ニーズ」なのではないかと思われる。労働基準監督署などを通じて、法令違反でワーク・ライフ・バランスを損なっている企業に対してものを言う、悪質な企業の企業名公表ということを位置づけて欲しい。 同時に、「ワーク・ライフ・バランス」つまり産休・育休や、労働時間の短縮を労働者に保障するには一定の体力が必要である。それが確保できている企業への「優遇措置」は、むしろ格差を広げることになるのではないか？いかにすそ野を広げるかという方向に検討することを期待する。	ご意見の趣旨は計画に取り込んでいます。 ご指摘のとおり、ワーク・ライフ・バランスの取組みにおいて、すそ野を広げることは大切だと考えています。区では、ワーク・ライフ・バランスが実現できない原因を明らかにした上で、その障壁を克服するための支援を行いたいと考えています。「ワーク・ライフ・バランス推進企業認定制度」は、多くの企業に制度の趣旨をご理解いただき、すそ野を広げるための取組みの一步となる制度です。 当該事業については、本計画の施策体系に位置付け、引き続き推進していきます。
70	シンポジウム、四谷地域センターの地域説明会に参加した。地域説明会では、意見・提言を発言したので、掲載をして欲しい。	ご意見の趣旨に沿って取組んでいきます。 地域説明会でいただいたご意見等については、区のホームページなどで公開していきます。

この印刷物は、業務委託により2,000部印刷製本しています。

その経費として1部あたり45円(税別)がかかっています。ただし、編集時の人件費等は含んでいません。

印刷物作成番号
2009-6-3001
<p>新宿区次世代育成支援計画（平成22年度～平成26年度）（素案） に対するパブリック・コメントの意見及び区の考え方</p> <p>発行年月 平成22年3月 編集・発行 新宿区子ども家庭部子ども家庭課 〒160-8484 東京都新宿区歌舞伎町一丁目4番1号 電話03(5273)4260</p>

●新宿区は、環境への負荷を少なくし、未来の環境を創造するまちづくりを推進しています。

本誌は森林資源の保護とリサイクルの促進のため、古紙を利用した再生紙を使用しています。



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用